

2024 度 公開シンポジウム 2

生成 AI の教育利用を教育心理学から考える

| | |
|--------|--|
| 企画 | ：日本教育心理学会 研究委員会 |
| 司会 | ：山田剛史（横浜市立大学） |
| 企画趣旨説明 | ：楠見 孝（京都大学） |
| 話題提供 | ：美馬のゆり（公立はこだて未来大学） 生成 AI の社会的影響と教育 |
| 話題提供 | ：堀田龍也（東京学芸大学） 小・中・高における生成 AI の利活用をどう考えるか |
| 話題提供 | ：溝上慎一（桐蔭横浜大学） 生成 AI の実装開発の事例から見える学校・大学教育の 可能性と課題 ——文科省高等教育局「Scheem-D」プロジェクトより |
| 話題提供 | ：今井むつみ（慶應義塾大学） 生成 AI の教育活用と記号接地 |
| 指定討論 | ：楠見 孝（京都大学） |
| 指定討論 | ：白水 始（国立教育政策研究所） |

企画趣旨：

ChatGPT などの生成 AI の教育利用について、文部科学省や各大学ではガイドラインが作成され、一部で利用が進んでいます。こうした時期に、生成 AI の教育利用が学習者に及ぼす影響を教育心理学的に検討することは、教育心理学の研究および教育実践において意義が大きいと考えます。

本シンポジウムでは、4 名の話者提供から、生成 AI の社会的影響と AI リテラシー育成の重要性、小学校から大学までの教育現場での生成 AI 活用の実践事例の検討、さらに、生成 AI の教育利用において議論すべき点について問題提起を行いました。そして、2 名の指定討論者とともに、「生成 AI の教育利用」が学習者や教師の記号接地による「生きた知識」を損なわないか、「生成 AI の教育利用」に向けて、教育心理学者にしかできないことや教育心理学に期待することは何かなどについて議論を行いました。本シンポジウムの視聴が、「生成 AI の教育利用」について教育心理学から考えるきっかけになればと願っています。